

本日は休診

—第1話—



そそくさと
夏が去る日
山脈を越えて
いっそく飛びに
秋がやってくる

毎年毎年
せっかちなヤツだ
紺碧の高い空には
絹のように薄い小さな
雲があつたが
秋風に追われ
やがて空の青さの中
とけて消えた



海拔千メートルという
高いところにある
見川医院のまわりも
秋が来ていて
真っ赤っか

おまけに
病院の帳簿も
真っ赤っか





ふあ〜















私は見川鯛岳
父の跡を継いで
3年

この町では
あまりにも
父・鯛山の印象が
強すぎて
息子の私まで
同じだと
思われてる



やっと
見つけた

あっ
いた!



父は自分から
ヤブ医者と
公言していたので
問題ないが

ヤブ医者の看板まで
受け継いでいるろ
思われているのは
つらい



なんだ
茶島

ハア
ハア



おおきな
お世話だ!
俺になんか
用か

肝心な時に
居やがら
ねえんだな
おめえは

いつも
暇すぎて
病院で
ポ——っと
してるくせに

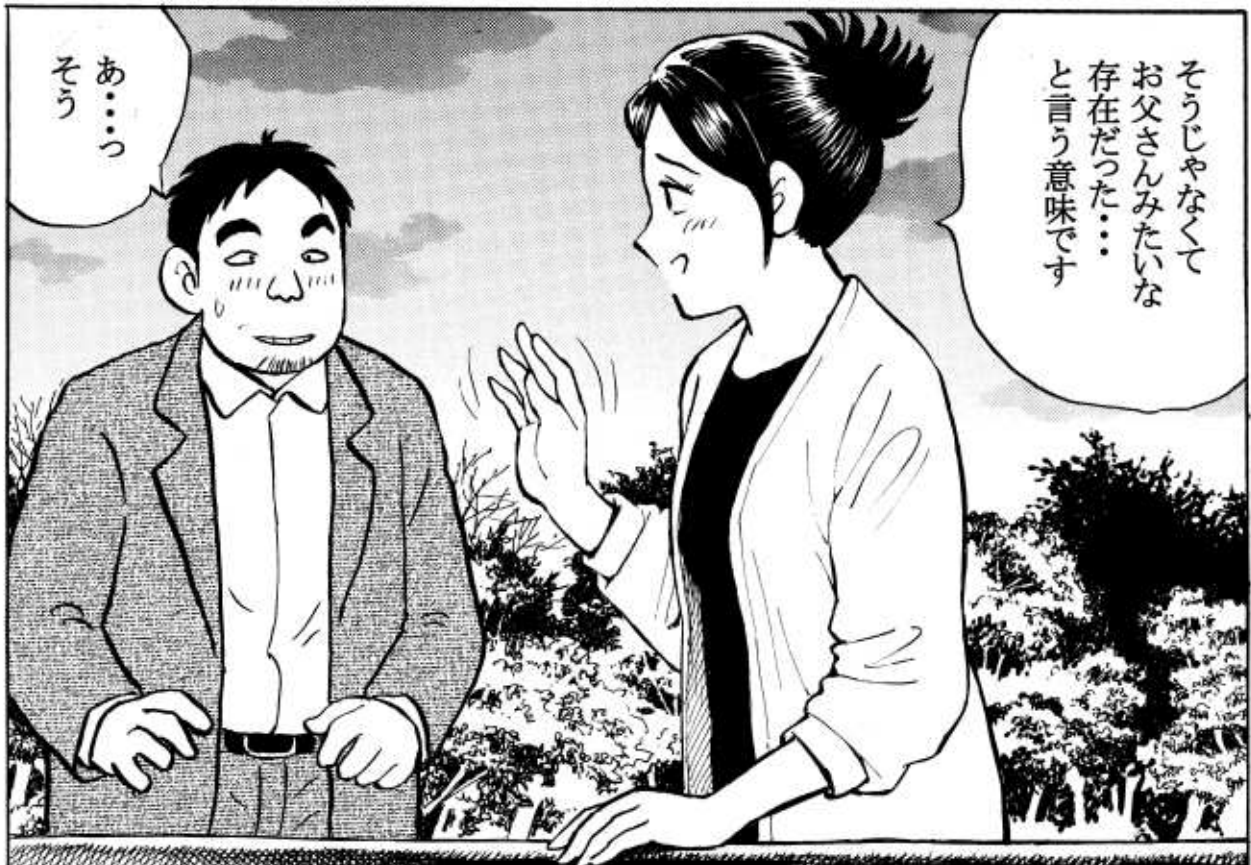


茶島と
いうな
「巡査」と言え
「巡査」だ











私の家は
母と私だけの
母子家庭で

父は
私が生まれる前に
病気で死んだと
母が話して
くれました

母は
父が残した
小さな畑を
耕し
朝から晩まで
働きづめ
でした



山を下りて
生活保護をと
勧められても
頑として
受けず：

何かに
取り憑かれるよに
働きつづけました



でも
そうした
無理がたたって
とうとう
畑仕事の最中に
母は倒れて
しまったんです















それと
人気の点で
真逆なのが
見川医院である

今では
この人気の無さも
父の遺産を思っ
諦めている



まったく
男つてのは
バマですね



聞きました
鯛岳先生？
「ほつこり
マッサージ」の話

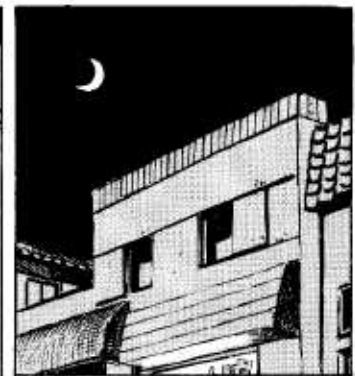
ええ
聞きました



そんな私も
バカの一人で
週に3回は
通っている
常連である

親父の血を
りっぱに
受け継いでいる
らしい

ども



あら
先生！